

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2単位)		3. 科目番号	SSMP2161 SCMP3460 SBMP3460 SBMP3460 SSMP2161 SSMP3160
2. 授業担当教員	三田真外・茅野由紀・谷口恵子			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の日標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライアントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライアントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。</p> <p>課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる)。</p> <p>課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行うまとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、社会福祉士・精神保健福祉士として専門的なケースワーク、面接が提供できるか。またそのために設定された具体的な目標6つを達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人レポート(課題1~3) 60% 2. まとめレポート 40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説		事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。
			事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を熟読し、その内容をまとめる。

第2回	人を理解する(1) 精神分析理論について学習する：精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する：行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める 学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)
第3回	人を理解する(2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第4章(pp.64~88)を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第4回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態(構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100~111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第5回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第6回	クライアントに対する姿勢：バイステックの7原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイステックの7つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイステックの7原則との関係性をノートにまとめる。
第7回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質(癖や傾向)について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第8回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第9回	面接における技術：基本的応答技法について理解する(1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価(できた点と課題点)をノートにまとめる。
第10回	面接における技術：基本的応答技法について理解する(2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価(できた点と課題点)をノートにまとめる。
第11回	事例に基づくアセスメント面接の実施(1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第10回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第12回	事例に基づくアセスメント面接の実施(2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第9回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第13回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施(1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第14回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施(2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第13回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第15回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する(まとめレポート)。